

〔巻頭言〕

今年の漢字一文字は「新」

日本農産工業株式会社研究開発センター 櫻井 忠

師走に入り、今年（平成21年）の世相を表す漢字一文字が「新」と決まったことは記憶に新しい。「新」となった理由として、民主党政権誕生、裁判員制度スタート、オバマ米国大統領就任、新型インフルエンザ流行など、これまでになかった多くの新しい出来事が背景にある。一昨年は食品偽装や番組内容偽装などを反映して「偽」、昨年は社会の変化、変革などを受けて「変」が各年の漢字一文字であったから、世相を反映した「偽⇒変⇒新」という流れのようにも思えてくる。

今年の養豚界を漢字一文字で表せば何になるだろうか？長引く豚価低迷を反映して「低」、「苦」などになるかもしれないが、筆者はオーエスキー病防疫対策要領の改正を受けた「新」と捉えたい。平成3年に制定された同要領は平成20年6月に改正され、事実上今年から新しい清浄化対策が実施されている。

オーエスキー病の国内発生は、昭和56年（1981年）の山形県が最初で、その2年後に家伝法の届出伝染病に指定された。筆者がさらにその翌年に獣医師国家試験を受験した当時、伝染病学でオーエスキー病が出題される可能性が高いと学内で信じられていた（五捨択一問題にしやすいと勝手に考えていた節もある）。結局のところ、出題されなかったと記憶しているが、オーエスキー病が重要疾病でワクチンもまだなかったのにもかかわらず、法定伝染病ではなく届出伝染病に指定された

ことが強く印象に残っている。

今日では、有効なワクチンが上市され、感染抗体とワクチン抗体が識別できる検査系が確立され、ヘルペスウイルスの特徴や移行抗体の動きなど、清浄化対策を含むオーエスキー病の詳細はかなり明らかになっている。オーエスキー病は豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）と比べれば、決して清浄化が困難な疾病とは思えない。海外では清浄化に成功した国もある。改正された防疫対策要領では、飼養衛生管理基準の遵守を基本に、抗体検査（モニタリング）の効率的実施、感染豚の摘発・淘汰、ワクチン接種の徹底、清浄豚の流通などにより、国内のオーエスキー病の清浄化を目指している。農林水産省のHP（オーエスキー病の地域別ステータス）は14都県でオーエスキー病が依然として浸潤していると報告しているが（平成21年12月3日現在）、早期に目的が達せられて発生事例が皆無になることを心から期待したい。

SPF豚は生産性を阻害する特定疾病を取り除いた健康な豚であり、オーエスキー病は5つある特定疾病のひとつである。近い将来、国内のオーエスキー病が清浄化されれば、SPF豚農場が別の疾病のコントロールを新たに目指すことにつながるであろう。言うまでもなく、国内養豚全体の衛生状態の底上げにもなる。農場の疾病コントロールは必ず農家の儲けに連動していくはずである。その漢字一文字は「喜」と表せるのではないか。